

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2016年10月1日 157号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



第16回国際協力青年奉仕隊

レダ基地公館前にて 2016年8月5日



養殖パクーの冷凍前処理作業を体験。

先住民チャマココ族の子供たちと。

ディアナ小学校木造校舎ペンキ塗り奉仕。

「日本の青年たちが来てくれると、生徒たちの向上心が高まります！」

第十六回国際協力青年奉仕隊は、八月二十五日に成田空港を発つて、南米パンタナール地域で様々な奉仕活動と体験学習を行い、九月十日に元気よく帰国しました。

二十七・二十八日 首都アスンシオンから、小型バスで約十八時間をかけてチャコ地方のディアナ村に向かいましたが、途中で突然の激しい雨に見舞われました。このため道路がぬかるんで走行不能となり、広大な無人地帯で立往生になりました。幸いにも二時間半後には徐行ができるまでになり、三十分後に辛うじて降雨地域を脱出。日が暮れて真っ暗になつたディアナ村に到着すると、校長先生と村人たちが温かい食事を準備してくれていて、隊員たちは長旅の疲れも忘れ、旺盛にいただきました。

二十九日 早朝からさっそく、木造の古い校舎のペンキ塗装を始めました。雨の日は学校が休みで、生徒たちは家にいました。奉仕隊員たちは雨合羽を着て、まず白色の水性ペンキをローラーや刷毛を使って丁寧に塗りました。午前九時頃になると雨が上がり、生徒たちが学校にやつて来ました。ペンキ塗りは子供には難しい作業ですが、傍で見ていると、とても楽しそうに見えます。子供たちは競い合うように刷毛を取り、にぎやかな声で塗つてくれ、後で奉仕隊員たちがきれいに直しました。

十時頃から、歓迎会が始まりました。ヒメネス校長先生が、「私たちの学校に日本の青年たちが来てくれると、生徒たちの勉学心がとても高まります。この子供たちは皆さんの到着を、『あと何日』と、毎日指折り数えて待っていました」とあいさつ。そして奉仕隊リーダーの伊藤君、「この学校の皆さんと村人と会える日を楽しみにしてきました。」さらに奉仕隊員が一人ずつ、名前と年齢と学業をスペイン語で自己紹介しました。これらすべては、佐野氏が正しいスペイン語に通訳し、校長先生がチャマココ語で低学年の子供たちに伝えました。

続いて、奉仕隊が歌とダンスを披露すると、生徒たちの目が輝き、頬が緩み、場が一気に高揚しました。生徒たちは、何と、日本の歌に独自の振付けをして踊つてくれました。そしてお楽しみのプレゼント。(次面に続く)



ディアナの学校にて感謝とお別れの会。右のパラグアイ国旗に「いつまでも友だち」と書いてくれた。8月31日



言葉のいらない時間



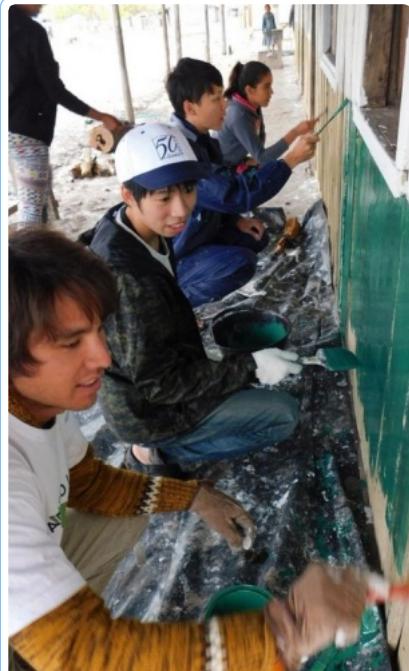
大人気、スマホ自撮り



ヤシの



ピンチ、バスが立往生！



スキルの必要な油性ペンキ塗装



高学年クラスの生徒ら



美しく塗装された ディアナ村の古い木造校舎 8月30日

科センターから贈られた
帽などと、当会が準備し
たノート、ボールペン、
色鉛筆ほかの文具を詰
め合わせ、生徒たち一
人ひとりに手渡しまし
た。先生方にはLサイ
ズのTシャツを贈り、
奉仕隊員とツーショット撮影。家にいて、も
らいそびれた子供たち
も次々にやつて来て、
もれなく受け取ること
ができました。

ンキ塗りは完了。夜は電気のない中に、ランプを灯して、かなり手をかけて準備された夕食を美味しくいただきました。涼しい日で、蚊はいませんでした。
三十日 素晴らしい晴天となり、ニス塗り、交流会、森での腐葉土集め、校庭に生け垣を造るための植樹など、盛りだくさんの活動で汗を流しました。夕食後、外に出ると、大小細かな星々が満天を埋め尽くして、その数の夥しいこと、一同感嘆の声を上げました。初めて見る南十字星。本当に大河のようない天の川。奉仕隊の青年たちは、たき火の周りで大いに語り合い、更けて行く夜を惜しみました。

ボートが到着すると、涙ながらに抱き合う姿がたくさん。先生、生徒、村人たちは、川岸まで隊員たちの重い荷物を運んで、私たちを見送つてくれました。 ブラジルとの国境を流れる大河パラグアイ川を60Km下ります。レダ基地に到着した青年たちは、よく整つた基地の諸施設に素直にびっくりしました。大きな歓迎バナーの掛かる大食堂で、ピラニアソーセージやパクーのかまぼこを含む料理を楽しみ、土や汗やベンキの着いた衣類を、自分の手で洗いました。

九月一日 パンタナール開発プロジェクトの意義と歴史を学ぶため、パンタナール研究所をはじめ、基地内をトラックで移動しながら各現場を見学しました。警察署と海軍派出所でも青年たちの来訪をとても喜んでくれました。奉仕隊の活動で特筆すべきは、諸々の体験学習です。タロイモ水田で顔に着く泥も気にせず、大きなイモを渾身の力で収穫し、川岸でそのイモの皮を剥いて洗います。（次面に続く）



初心者には少々ワイルドな、パクーの収穫

ヨッコラショ、タロイモの収穫を体験

レダ基地公館前にて

9月1日



手綱を取って、乗馬体験

長い牙を持つカショーロ

リーダーは太いヤシの木に挑戦

豚ランドにて



世界自然遺産イグアスの滝を見学

ブラジル、鳥の公園

アスンシオンの教会にて

さあ、アキダバンだ！



ファン・アファラ副大統領を表敬訪問

大統領府前の歓迎旗

ミルノ・アドルノ議員

全国紙のabc新聞社を訪問

（二面より続く）次はパクーの収穫体験。皆で大網を持ったて養殖池に入り、約2Kgに成長したパクーの群れを対岸に追い込みます。そして暴れる魚を捕まえ、トラックの氷水タンクに入れます。敷地に戻り、包丁を使って魚の内臓を取り出し、きれいに洗つて冷凍保存します。最後は豚ランドを見学し、開墾途上地のヤシの木を斧で切り倒しました。これらの作業は決して生易しくなく、腰の筋肉や手のひらを通じて、しっかりと記憶されたことでしょう。（小田記）

隊員たちの感想文より

● 大自然をこの目で見て、改めて神様の力は素晴らしいと心から感じました。日本の反対側に来て、日本にはないものが多く存在し、私は価値観が大きく変わりました。（男23） ● 一人一人が輝いていて、私自身も自然と皆を愛したい、何か為に生きたいという思いが強くなり、一瞬一瞬が本当に貴重で、その場にいるだけでも幸せでした。（女20） ● 今回参考させてもらい、心と体でいろんな経験をして、また一回り成長したなと実感しました。早く帰つて、家族に話したいです。来年この地に必ず戻つて来て、開拓できたらいいなと思いました。（男21） ● 朝は鶏の声で目を覚まし、動物と一緒に暮らして、雨が降つたら学校は休み、川で遊んだり洗濯したり、自然と一緒になつて過ごすのが本然の生き方なんだなと感じました。ディアナの人々は、貧しいというより、シンプルな生活をしていて、決して不幸ではないということ、これは大きな発見でした。（女21） ● 今回は体験だけでしたが、必ずもう一度来て、次世代として貢献して行きたいと強く思いました。（女20） ● 開拓体験でのヤシの木は思つた以上に大変で、話を聞くだけ、見るだけじゃ理解できないこと、実践してみてこの地を開拓することの難しさを思い知りました。何事も無理だからとか言つて諦めずに、やり続けることが大事なのだと、たつた一本の木からでも多くの事を感じることができました。（女20） ● 雄大で、原始の姿を保つていて自然は、空も川も動物も植物も、どの一つをとっても美しく、神様の造化の美を感じました。鳥一羽を見続けてい

ても、飽きない魅力がありました。（男22）

「家の捨て石が要石になる！」 中田所長と大和田氏がレダの活動を報告



去る九月十一日、大山街道ふるさと館において開催された定例集会で、八月末より日本に一時帰国しているレダ基地の中田実所長と、スタッフの大和田法生氏が、基地での活動を報告しました。

中田所長　パクー稚魚の放流は一万匹から始め、二万匹、五万匹、十万匹と増えてきました。近い将来に百万匹を目指します。今年のレダ基地は千客万来です。副大統領、国會議員をはじめとするパラグアイの要人たち、海軍の軍艦の寄港、北米の牧師、人権活動家、国際的青年ボランティア隊、等々です。チャコ地方は見捨てられた地でしたが、レダ基地17年の歴史と未来を見れば、南米大陸の要石になろうとしています。私たちは、苦労を顔に滲み出させません。難しい話をしなくとも理念の実体を見せれば、人は納得します。



青果保冷庫内の大和田氏 中田所長(左)、佐藤さん、上山氏

は、その開拓精神と、根拠ある希望とを共有するため開催されます。先回は、八月に開催され、プロジェクトの理念と実践とに感動と啓発を受けられた参加者たちの感想を、本誌でご報告しました。その後、「次は何時?」「どこ?」等のお問い合わせを多数いただきましたが、左記の要領で開催いたします。会場が新しくなりますので、ご留意ください。

日時　二〇一六年十一月十二日（土）十時より受付、十時二十分開始～午後五時終了。
会場　川崎市民プラザ二階セミナールーム（川崎市高津区新作一一十九一）
アクセス　東急田園都市線「梶が谷駅」から市バス溝口南口行き乗車（約五分）市民プラザ下車。徒歩の場合は約十五分。または溝口駅南口から梶ヶ谷駅行き乗車（約十分）市民プラザ下車。行き方の詳細は、川崎市民プラザのホームページをご覧ください。

参加費　二〇〇〇円（昼食を含む）

参加を希望される方は、別紙の応募用紙に必要事項を記入の上、ファックスかメールで下記の当法人事務局でお送りください。

道　講師　●　「レダ開拓と福地建設の歩み」講師　柴沼邦彦
主催　一般社団法人南北米福地開発協会
共催　NPO地球の緑を守る会
大和田氏　レダ基地の機材、備品、食料調達、清掃管理など、生活に伴う問題点は、物事に持続的な責任心情を持つことで克服できます。



川崎市民プラザ（バス停より望む）　柴沼邦彦講師

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話：044-829-2821
FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール：office@asd-nsa.com
ホームページ：http://asd-nsa.com

会員種別

♠会員一口1000円／月

♠特別会員一口1万円／月

♠法人会員一口1万円／月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座　ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名：シャ）南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページから入手できます。

お便り募集

愛称オーチェンタ
(80)



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局 office@asd-nsa.com へお願いします。